

各位

上場会社名 明豊ファシリティワークス株式会社
 代表者 代表取締役社長 大見 和敏
 (コード番号 1717)
 問合せ先責任者 取締役 経営企画部長 大島 和男
 (TEL 03-5211-0066)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,800	270	270	118	9.60
今回発表予想(B)	6,400	370	370	188	16.12
増減額(B-A)	600	100	100	70	——
増減率(%)	10.3	37.0	37.0	59.3	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	5,381	197	221	130	10.56

修正の理由

(売上高)

大型の全国拠点統廃合案件について、顧客ニーズに基づきアットリスクCM方式(注1)にて対応したこと等により売上高が増え、通期売上高に占めるアットリスクCM方式等を採用する請負契約案件の比率が予想65%に対して73%になる見込みとなりました。これにより平成20年5月14日公表の当初計画と比べ、売上高は6,400百万円(当初計画比10.3%増)となる見込みであります。

(営業利益、経常利益)

CM事業部を中心として9名の純増員を今期計画致しましたが、金融危機による世界的な景気低迷への備えとして、採用の抑制等を実施し、今期末では逆に16名の減員となる見込みであります。増員を前提としたワークプレイスの拡大計画を見直し、賃借料等が予定より低くなる見込みとなりました。

これらの結果、販売費及び一般管理費(原価への振替前のベース)は当初計画に比べ約132百万円低くなり、営業利益は370百万円(当初計画比37.0%増)、経常利益は370百万円(当初計画比37.0%増)となる見込みであります。

(当期純利益)

ワークプレイス見直しを計画し、候補物件を探しておりましたが、金融危機による世界的な景気低迷の影響を当社も受け、固定費削減に繋がる本社分室と本社の統合を決定し、特別損失は当初予想より43百万円少ない約22百万円となる見込みとなりました。

これとは別に、退職勧奨実施に伴うものとして、総額23百万円の特別損失が発生する見込みであります。

これらの結果、当期純利益は188百万円(当初計画比59.3%増)となる見込みです。

(注1)

当社の売上高は、ピュアCM方式(売上高=当社フィー)とアットリスクCM方式(売上高=当社フィー+工事コスト)で大きく異なります。どちらも、契約時に顧客との間で当社フィーの金額を確定するCM方式であることに違いはありませんが、アットリスク方式の場合は、工事コストが売上高に加わるため、その分売上高のみが大きくなります。

(注)

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

<配当金について>

当社は将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを利益処分に関する基本方針とし、併せて業績の伸びに応じた配当を行なうことを目的として配当性向を30%と定めております。前述業績予想の修正後においても、配当性向が30%を上回ることから、1株あたり5円00銭を据え置く方針であります。

以上